

INTERVIEW ~Work Life~

Shigeru Takagi

倉吉河川国道事務所 事務所長
高木 繁



足跡

昭和62年 建設省に入省。
広島国道事務所 調査設計課
係員
アストラムラインに携わる
平成 2年 土木研究所 研究員
平成10年 岩山国道事務所 調査設計課
計画係長
地域と共にまちづくりに取り組む
平成12年 広島国道事務所 共同溝課
共同溝係長
平成14年 道路部 道路計画課
計画第二係長
平成19年 松江国道事務所 調査設計課
課長
平成20年 企画部 広域計画課
課長補佐
平成22年 道路部 道路計画課
建設専門官
平成24年 道路部 道路計画課 課長補佐
平成27年 國土政策・技術政策統合研究所
道路構造物研究部
主任研究官
平成29年 道路部 道路保全企画官
平成30年 倉吉河川国道事務所 所長
約50人を束ねる事務所のトップに

構造物のある風景

学生時代は旅行先で橋や道路をよく見ていました。カレンダーの風景写真のように巨大なダムや橋、道路といった構造物が都市や自然の中に溶け込んでいる無駄のない美しい風景が好きです。これで多くの巨大な構造物に携われる国での仕事に興味を持ちました。

入省後は広島でアストラムラインの施工に携わりました。高架橋の設計や工事発注をしており、都市の中の構造物に関わることができました。

その後、土木研究所に出向し、橋や道路の設計基準の作成や大規模な地震の被災調査を行っていました。被災地では様々な惨状を目の当たりにし、社会を作っている土木施設の安全向上が大事だと身をもて感じました。

地域の人と共に、地域のために

岡山に勤務した時に初めてまちづくりの取組みを行いました。地域の人と共に地域の未来を描くまちづくりや都市交通問題を考え、時には交通に関する社会実験を協働で行いました。新しい道路が必要ではないか、どのように公共交通とリンクする

のか、子育てや福祉の面から見てどうか、人優先の道路が良いか、など都市の未来図を創るようなことをしました。これをきっかけに自分の事業だけの視点でなく、その地域の課題や必要な施策は何かと常に考えるようになりました。

整備局には各地域に根ざした事務所があることで、地域の個性や特徴に合わせた事業を見い出せるという強みがあります。地域の方の声を聞き、地域が困っているのであれば一緒に考え、「地域の人と共に、地域の為になる(心に残る)仕事をする。」を強く心がけています。

山陰地域の魅力発信

今は山陰側の事務所で仕事をしています。山陰側は山陽側と比べて交通網が弱く、人口・産業・観光等の面で課題がありますが、中国地方の多くを占める山陰・中山間地域は共通の課題を抱えているのではないかと思います。一方で、あまり伝えられていない魅力もたくさんあります。今後、中国地方が全国での競争力を持つためには、この山陰・中山間地域でどのように活かしていくのかがキーポイントだと思っています。倉吉河川国道事務所から山陰地域の魅力を引き出し、地域の活力や

競争力、防災力の向上につながる取り組みを発信していきたいです。

構造物のお医者さん

新しい構造物を造る中、老朽化対策も重要です。人間ドックのように構造物を定期的に検査し、「経過観察ですね」、「大規模な補修が必要ですね」と構造物を診るお医者さんを見ていくことがこれから必要になります。構造物を造る時から材料を工夫したり気象条件の履歴を残したりと将来の診断に向けての準備も必要です。これから入ってくる皆さんにも構造物のお医者さんに興味を持つもらいたいですね。



国土交通省に入ったきっかけ

母親がフルタイムで働いているのを子供の頃からみており、自分も家庭を持って働きたいと思っていたので、公務員を選びました。最初は地方自治体にしようと思っていたましたが、国の官庁訪問(個別説明会)で話しかけるうちに規模の大きいな事業に興味がわいて面白そううだと思い、国に決めました。子供の年齢によっては転勤が難しい時期がありました。近場での異動など配慮してもらえたこともあり仕事を続けています。

入省前は、岡山は大きな事業ばかりで地域の方とはあまり関わらないイメージでしたが、実際は各地に事務所や出張所があり、地域の方とお話しする機会も多いです。地域の方に喜んでいただけるようにという想いを持って働いています。また、転勤の度に新しい仕事や新しい人の出会いがあるため良い刺激になっています。

印象に残っている仕事

主に河川関係の仕事をしてきましたが、現在の出張所での砂防の工事監督が一番です。私

は平成26年広島土砂災害の5ヶ月の復旧事業のうち、3~5年目を担当しています。1日も早く砂防ダムを完成させて欲しいと願う地域の思いを受けながら、施工業者の方と一緒に現場の課題解決に取り組んでいます。災害復旧という事業のためスピード感がある上、出張所長という立場から自分の判断で物事が決まることが多いため、責任も感じますがやりがいも感じています。また、平成30年7月豪雨の際には、まだ工事中の渓流で土石流のことを考え、前日から現場で対応していました。施工業者の方達の対策のおかげで大きな被害が出なかったことに本当に感謝しています。その後、広島市内の別の箇所で起こった土石流箇所の応急対策を担当しました。どのように土のうを積めば2次災害が起こりにくいかなど現地状況を見て応急対策を考えるのは大変でしたが、良い経験になりました。

ハプニングでこそ力を發揮

私は割と土壌場に強いタイプのようです。タイトなスケジュールの中トラブルが発生したり、講演会で機器の調子が悪かったりとハプニングがあっ

てもそれをクリアし、その時のアドリブを褒められることがありました。

しかし、役職も仕事内容も変わってきて、目の前の課題をクリアするだけでなく計画性やマネジメント能力が必要だと感じています。今後はもっと広い視野を持って、仕事を進められるようになりたいです。

家庭も充実

次男が小学生の頃、少年野球のチームに入っていたので、土日はほぼ野球の応援に行っていました。早朝から試合に出かけることも多く大変でしたが、その時しかない子供との関わりが持ててとても良かったと思っています。そこで知り合ったお父さんやお母さん達と話しをするのも良いストレス解消となっていました。

今は、長男は大学生、次男は中学生になったので、現在は少し仕事に比重を置いていますが、今後は自分の時間を増やす、趣味の時間を持ったり、旅行に行ったりしたいなと思っています。

広島西部山系砂防事務所 広島西部砂防八木出張所長
富田 紀子

足跡

平成 8年 建設省に入省
斐伊川・神戸川総合開発工事
事務所 工務第一課
平成11年 結婚
中国技術事務所 技術課 係員
平成12年 長男誕生 育休取得
平成13年 復職
平成15年 太田川河川事務所
管理第一課
平成17年 鳥取河川国道事務所
千代水出張所 技術係長
平成18年 次男誕生 育休取得
平成19年 復職
平成20年 太田川河川事務所
調査設計第一課・計画課、
調査設計第二課、
工務第一課 係員
平成26年 企画部 企画課 教習係長
くしくてテニシング部
土木技術者女性の会に会員
平成28年 河川部 河川計画課
河川環境係長
平成29年 太田川河川事務所
広島西部砂防八木出張所 所長
(平成31年4月から広島西部
山系砂防事務所 広島西部
砂防八木出張所)

Noriko Tomita



WORK-LIFE BALANCE

情報LABO ~企画部 情報通信技術課~

働き方改革とは…1人1人の働き方の選択?

情報通信技術課では、中国地方整備局における働き方改革をリードするための取組として“情通LABO”を設立しました。“情通LABO”はこれからの時代に適応した働き方と安全で快適なICT環境を駆使し、中国地方整備局全体の業務改善へ繋げる狙いがあります。

01 新しい“働き方”的提案

→ ICT技術を用いた新たな職場環境



国土交通省で初めて“ABW”を導入

ABW(Activity Based Working)は、モバイルPCや無線LAN等のICT技術を用いて、仕事内容に応じて働く時間と場所を職員自らが選択し、業務の効率性と生産性を高めるワークスタイル。

ABW実現のための3本柱

(I) 安全で快適なICT環境

最新デバイス導入と無線LAN環境整備

(II) オフィスリノベーション

柔軟にレイアウト変更できるオフィス
コミュニケーション活発化と集中業務環境の両立

(III) 制度・ルール

本格的なペーパレスへの実現

03 これからのオフィスは…

→ 情通LABOは日々新しい“働き方”を提案し続ける

最新のデバイスで業務の効率化、ペーパレスを実現。遮るものが無いオフィスは、コミュニケーションが活発化。

集中したいときには、集中スペースへ、気分転換したいときは窓際のリフレッシュコーナーへ、今日は会議の資料作りだから、先輩の隣へ…。

オフィスで気軽に気分転換できるレイアウトで、普段と違う目線でアイディア探しも。



どんなオフィスを作るのかは、“情通LABO”的メンバー次第。

情通LABOは、働きやすいオフィスを目指して、日々進化を続ける。

今やるべき仕事に対して、いつ・どの場所でやるのかもっとも効率がいいか、“ABW”的考え方を取り入れたオフィスは中国地方整備局全体に新しい“働き方”を提案します。

さあ、あなたも、自分で、自分だけの“働き方”を探してみませんか。

02 自分たちの手で作り上げるオフィス

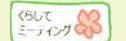
→ 職場環境の向上のために

自分たちの業務プロセスを見直し、働きやすい環境を考え、自らの手で理想のオフィスを作る。

上司・部下の垣根を越えて出し合った皆の意見が、働きやすいオフィスへと姿を変えていく。



くらしてミーティング



女性の感性を活かしたよりよいインフラ整備・管理及び済外活動を実施するため、組織のプレゼンス向上並びに女性の情報共有を行うことを目的とした「くらしてミーティング」を平成26年度に設立。男性も女性ももっと輝ける職場を目指して活動しています。

女性職員講演会・意見交換会

先輩女性職員から仕事と家庭を両立するための構えやテクニック、苦労話などがありました。



安全衛生パトロール

工事現場のトイレや作業場の状況のパトロールを行い、とりまとめや発表を行いました。



道の駅点検

トイレや情報コーナーの状態や使いやすさを点検しました。



いろいろな制度

休暇制度

● 年次休暇

採用初年は15日、翌年からは20日。※残り日数は翌年に繰り越し。年間最大40日。

● 特別休暇

夏期休暇 7月～9月のうち連続する3日間
結婚休暇 結婚の5日前から結婚後1ヶ月のうち連続する5日間
その他特別休暇 産前産後休暇、忌引、看護休暇など

● 病気休暇

負傷、疾病のため療養する場合

● 育児休業

3才に満たない子を養育する場合

● フレックスタイム制



フレックスタイム制とは、4週間の総労働時間（155時間）の範囲内で、各勤務日における始業と終業の時刻を職員自らが選択して働くことにより、職員がその家庭生活と仕事との調和を図りつつ効率的に働くことを可能とする制度です。フレックスタイム制には必ず勤務しなければならないコアタイムと呼ばれる時間帯と、その時間内であれば、任意に始業・終業時刻を設定することができるフレキシブルタイムと呼ばれる時間帯があります。

共済制度

国土交通省共済組合が職員及びその家族のみなさんの生活をしっかりと支援します。

● 病気・ケガの診察

医療費の一部を支払うだけで治療が受けられます。

● 結婚、出産、育児休業の際

各種給付金が支給されます。

● 資金が必要な場合

臨時の支出を必要とする場合に貸付を受けることができます。また、給与からの差引により共済積立貯金も行っています。